

令和4年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	市バス路線・ダイヤの在り方に係る基本方針の策定		
予算額	18,447千円 (債務負担行為設定)	新規・充実・継続の別	継続
担当課	自動車部 運輸課(863-5132)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】</p> <p>市バス事業については、令和2年1月まではお客様数が順調に推移していたが、同年2月以降、新型コロナウイルス感染症が拡大し、緊急事態宣言が計4回も発出されるなどその影響は大きく、京都を訪れる観光客の減少や外出の自粛などにより、お客様数は大幅に減少し、令和2年度は全系統の営業係数が100を超える赤字となった。今後のお客様数の早期回復は見込めないこと、さらに車両や設備の更新に多額の費用が必要となるなど、市バス事業は極めて厳しい経営状況に直面している。</p> <p>このような危機的な状況を踏まえ、令和3年3月には昼間時間帯のダイヤの見直しを行ったほか、令和4年3月には急行系統を休止し、深夜バスを廃止するなど、お客様の御利用状況に応じた路線・ダイヤの見直しや車両数の削減を行うこととしている。</p> <p>御利用状況とニーズに応じた利便性の高い路線・ダイヤ編成で、市民生活と都市活動をしっかりと支えていくことが重要であることから、<u>より一層効率的な路線・ダイヤの在り方について、令和3年度（前回調査：平成24年度、前々回調査：平成14年度）に実施した市バス旅客流動調査及び市バスお客様アンケート調査の結果を踏まえ、検討を進める。</u></p>			
<p>【事業概要】</p> <p><u>市バス旅客流動調査及び市バスお客様アンケート調査の結果を分析し、この間の御利用状況の変化やお客様のニーズをしっかりと把握するとともに、令和4年度に設置する「京都市バスの路線・ダイヤの在り方に関する検討委員会」での議論を踏まえ、今後の路線・ダイヤの在り方に係る基本方針を策定し、持続可能な安定経営に向け、今後のダイヤ改正に反映させていく。</u></p> <p>【スケジュール（予定）】</p> <p>令和3年度 市バス旅客流動調査 市バスお客様アンケート調査</p> <p>令和4年度 市バス旅客流動調査結果等の分析（18,447千円） 「京都市バスの路線・ダイヤの在り方に関する検討委員会」の開催</p>			
<p>【参 考（他都市の状況・事業効果など）】</p>			

令和4年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	烏丸線新型車両への車内防犯カメラの設置		
予算額	19,250 千円	新規・充実・継続の別	新規
担当課	高速鉄道部 高速車両課(863-5263)		
<p>【事業実施に至る経過・背景など】 近年、鉄道車内における傷害事件が相次いで発生しており、令和3年8月6日の小田急線、同年10月31日の京王線での車内傷害事件を受け、国土交通省では、車内の防犯関係設備の充実の一つとして、車両の新造時等における車内防犯カメラの設置について、義務化を含めた検討を開始された。</p> <p>車内防犯カメラは、犯罪の抑止効果が期待できるとともに、事案発生時には、録画データが事後の状況把握や警察の捜査に役立つことから、令和7年度までに導入する烏丸線新型車両に車内防犯カメラを設置し、安全対策の強化を図る。</p>			
<p>【事業概要】 令和3年度から令和7年度にかけて導入する烏丸線新型車両9編成について、録画機能付きの車内防犯カメラを順次設置する。 令和4年度は、当該年度に導入する2編成及び令和3年度に導入した1編成の合計3編成に対して車内防犯カメラを設置する。</p> <p>【車内防犯カメラの設置予定】 令和4年度 3編成 (19,250千円) 令和5年度 2編成 令和6年度 2編成 令和7年度 2編成</p>			
<p>【参 考 (他都市の状況・事業効果など)】</p>			

令和4年度 京都市予算案 事業概要

交通局

事務事業名	北大路駅への可動式ホーム柵の設置		
予算額	328,276 千円	新規・充実・継続の別	継続
担当課	高速鉄道部 技術監理課(863-5216)		
<p>[事業実施に至る経過・背景など]</p> <p>京都市では、地下鉄を御利用のお客様に安心して御乗車いただくため、烏丸線全駅への可動式ホーム柵の設置に向けて取り組んでおり、令和2年3月には全駅設置に向けた具体的な計画を策定した。</p> <p>しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、現在、地下鉄事業はかつてない危機的な経営状況にあり、令和2年度決算で経営健全化団体となった。</p> <p>こうした中、可動式ホーム柵の全駅設置の方針に変更はないが、約110億円もの巨額の事業費を要することや、一般会計からの出資等を前提とする事業であることから、令和3年度に予定していた全駅設置に向けた車両改造を延期し、実施時期については、今後の経営状況を見極めながら判断することとした。</p> <p>一方で、可動式ホーム柵未設置の12駅のうち、北大路駅については、運行管理システムの更新に合わせて運行に工夫を凝らすことで、京都駅をはじめとした既設駅と同様、車両改造を伴わない従来方式で実施できることや、視覚に障害のある方が多く利用されるということも踏まえ、予定どおり、令和4年度中の供用開始に向け取り組むこととしている。</p>			
<p>[事業概要]</p> <p>北大路駅における令和4年度中の可動式ホーム柵の供用開始に向け、<u>柵本体の製作及び設置工事を行う。</u></p> <p>1 スケジュール (予定)</p> <p>令和2年度 設計</p> <p>令和3年度 設計, 工事契約, 柵本体の製作</p> <p>令和4年度 柵本体の製作, 設置工事</p> <p>2 総事業費 (予定)</p> <p>約3.9億円</p>			
<p>[参 考 (他都市の状況・事業効果など)]</p> <p>烏丸線駅数：15駅 } (うち可動式ホーム柵設置済：3駅 (京都, 四条, 烏丸御池))</p> <p style="padding-left: 100px;">うち可動式ホーム柵未設置：12駅 (北大路含む)</p> <p>東西線駅数：17駅 (うちホームドア設置済：17駅 (全駅))</p>			